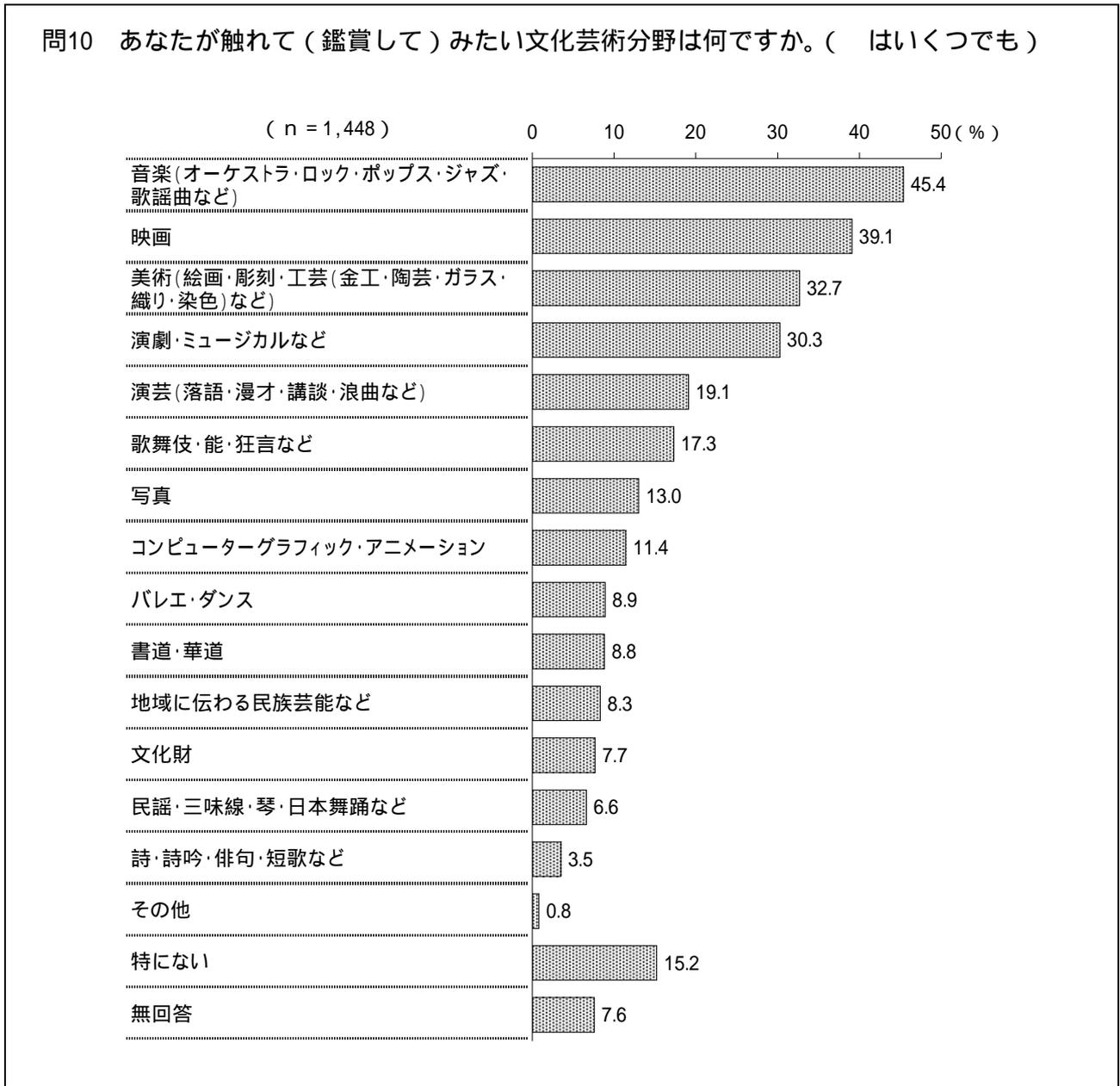


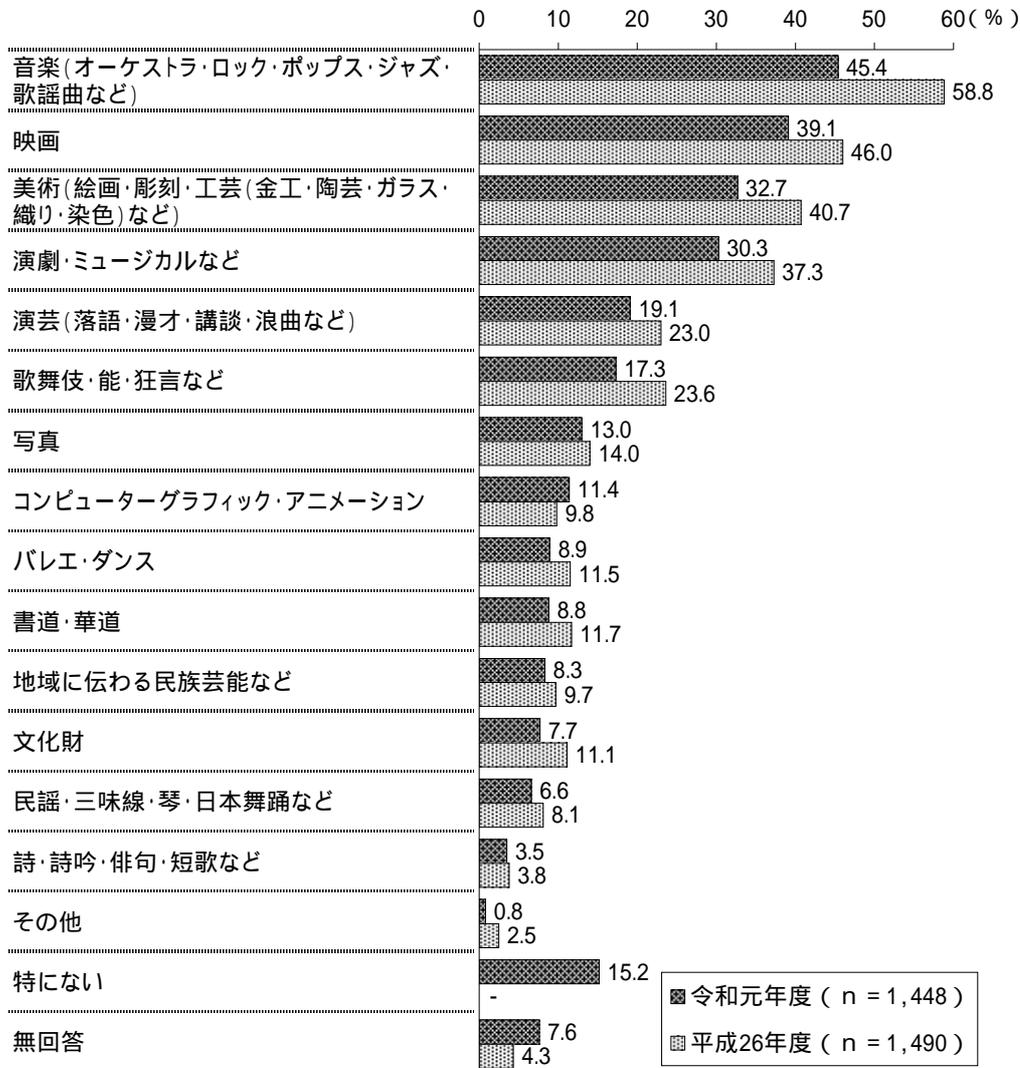
(3) 触れて(鑑賞して)みたい文化芸術分野



触れて(鑑賞して)みたい文化芸術分野をたずねたところ、「音楽(オーケストラ・ロック・ポップス・ジャズ・歌謡曲など)」(45.4%)が4割半ばで最も高く、次いで、「映画」(39.1%)、「美術(絵画・彫刻・工芸(金工・陶芸・ガラス・織り・染色)など)」(32.7%)、「演劇・ミュージカルなど」(30.3%)、「演芸(落語・漫才・講談・浪曲など)」(19.1%)と続いている。

< 経年比較 >

過去の調査結果との比較は、選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「音楽（オーケストラ・ロック・ポップス・ジャズ・歌謡曲など）」は平成26年度より13.4ポイント、「美術（絵画・彫刻・工芸（金工・陶芸・ガラス・織り・染色）など）」は平成26年度より8.0ポイント、それぞれ減少している。



「特にない」は今回調査から追加した選択肢

<性別・性/年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別で見ると、「演劇・ミュージカルなど」で17.2ポイント、「歌舞伎・能・狂言など」で8.3ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。一方、「コンピューターグラフィック・アニメーション」は男性が女性より7.2ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、「音楽(オーケストラ・ロック・ポップス・ジャズ・歌謡曲など)」は女性30～39歳で6割半ばと高くなっている。「コンピューターグラフィック・アニメーション」は男性の39歳以下の年代で3割台と高くなっている。

区別で見ると、「音楽(オーケストラ・ロック・ポップス・ジャズ・歌謡曲など)」は南区で5割近くと高くなっている。「映画」は南区で4割を超えて高くなっている。

